



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2022年  
6月24日  
発行

## 第138回 「まだまだ続く日本株優位」(つづき)

### ～見えてきた米インフレ沈静化の道筋～

#### 初めに

6月21日付け日本経済新聞は「設備投資回復 25%増」という記事を掲載しました。前回も、日本の景気は好調ということをお話ししましたが、これもそのことを裏付けるデータです。一方、米国では最近、原油や銅の価格が下落しています。これは、中間選挙が近づいてバイデン米大統領がいよいよインフレ沈静化に本腰を入れてきたあかしとみえています。今回は、日本の設備投資と米国のインフレ対策についてお話しします。

#### 設備投資は好調

冒頭の記事によれば、2022年度の設備投資の全産業計画額は前年比25%増える見通しで、伸び率は1973年度以来の高水準とのことです。こうした設備投資好調の理由としては、半導体や脱炭素を中心に需要が強いことや、新型コロナのために昨年度設備投資が計画通りに進んでおらず、その遅れを取り戻す、といったこともあるようです。いずれにしても、日本経済の好調を示すものであることは間違いありません。

また、翌22日付けの日本経済新聞は「夏ボーナス 13.8%増」という記事も掲載しています。今まではコロナのためボーナスも厳しかったと思いますが、これも景気にとって明るい材料です。米国では景気後退が懸念されていることに対し、日本の景気はまさに絶好調といった感じます。こうした報道からも、日本株優位はまだまだ続くと見えています。

#### 勝負に出たバイデン氏

ここからは米中間選挙についてお話しします。もともと当レポートでは、バイデン大統領は11月の中間選挙に間に合うようにインフレを沈静化させて来る、それも直前ではだめなので7～9月のどこかが焦点になる、と見ていました。この見方は今も変わりません。実際、バイデン氏も勝負に出たようです。ガソリン税の一時停止を議会に要請したことに続き、主要エネルギー各社に圧力をかけるべく会合を持つ予定になっています。

こうした中、WTIや銅の先物は6月22日時点で5月末に比べ7%安い水準に下落しています。インフレ沈静化への道は簡単ではありませんが、それでもバイデン・パウエルコンビであればやり遂げてくれると期待しています。



チーフストラテジスト  
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。